



会員数 19人

北九州プロバスケットボールクラブ月報

つながり

No. 223

令和7年1月号

2025. 1. 21

あけまして おめでとうございます

会長 植田佐世子

今年は巳年。甲乙…で始まる10種類の要素と12種類の動物を組み合わせた十干十二支(じっかんじゅうにし)によると、今年は42番目の乙巳(きのとみ)。芽吹きが成熟し、物事が大きく進む年になるそうです。年の初めにしか干支も易も抱負にも縁のない者でも期待したくなる話です。

さて、去年はどれほどの種をまくことが出来たか？疑問ではありますが、自分に正直に成長できるように努めたいと思っています。いえいえ、主役は皆さんなのですから、一緒にですよ。



12月卓話

写真で見る軍都・小倉の歩み

北九州市平和のまちミュージアム 学芸員 小倉 徳彦氏



平成4年4月に開館した同館の小倉学芸員がパワーポイントを使って、「軍都小倉」がいかに生まれ消えていったかを、ポイント、ポイントで写真を示しながら話を進められました。1875年(明治8年)に歩兵第14連隊が小倉城内に置かれたことが、軍都小倉の歴史の始まりで、第2代連隊長は乃木希典だったそうです。それから歩兵第12旅団、1898年には第12師団が置かれ、第2代師団長は井上光で、軍医部長として文豪森鷗外が赴任。小倉の街を闊歩しその門柱は今も残っています。

軍隊の立地は、人口の増加に伴う消費活動の増大、陸軍の資金援助による水道施設の整備等効用があったそうです。その後1916年には、大阪砲兵工廠小倉兵器製造所も出来ましたが、城内の土地だけでは狭く、北方へ兵営を移すなどして対応しましたが、人口停滞をまねき、1925年に第12師団が久留米へ移転しました。しかし、1923年(大正12年)の関東大震災で、東京小石川の陸軍造兵廠東京工廠が壊滅し、誘致運動の結果、その移転先が小倉市に決定。1933年に陸軍造兵廠小倉工廠(後に小倉陸軍造兵廠)として開設されました。ここでは軽戦車も造り、学徒・女学生等勤労働員して風船爆弾なども製造していたそうです。そして、軍都としてだけでなく、商業都市としても発展してデパートが3つもあったそうです。

1931年(昭和6年)の満州事変勃発、防空演習などを行いながら、1937年の日中戦争から、1941年太平洋戦争へと突き進みます。その間町内会や隣組等の整備、配給、学童疎開など小倉は昭和の戦争の真っ只中へ。1944年6月16日、北九州はB-29による本土初空襲を受け、目標は八幡製鐵所でしたが、小倉陸軍造兵廠に爆弾が落ち80数名が亡くなり、5市で約300名の死者が出たそうです。これを機に空襲は続き、8月8日の八幡大空襲で大きな被害を受け、北九州は13回の空襲を数えています。そして、運命の8月9日、原子爆弾を乗せたB-29は小倉の上空まで飛んで来ましたが、町は前日の八幡大空襲の煙とモヤに覆われ、爆弾を投下出来なかったと言われています。戦後は米軍が駐留し、1950年の朝鮮戦争では基地として役割を果たしたが、現在の小倉は北九州市の中心、商都として繁栄していますと話を結ばれました。

終戦当時4歳半だった私は、皿倉山の麓、母の実家で暮らし、8月8日の大空襲で家は焼けて跡形もなく、ただ家族の無事だけが救いでした。母に手を引かれて焼け野原を歩いた記憶は、遠い昔なのに鮮明に残っています。軍都は戦争になれば一番の攻撃目標になります。平和が一番、戦争は絶対駄目!8月6日、8日、9日の3日間を絶対に忘れてはいけない……と話を聞いて改めて心に刻みました。(内藤)

委員会報告

企画委員会

1月7日 6名出席

新春最初の企画委員会をリーセントホテルで開きました。「おめでとうございます」「今年もよろしく」との挨拶のあと協議に移りましたが、2月例会卓話は、吉田秀子さんによる会員卓話、詩の朗読「96歳柴田トヨさんの詩の世界」です。

次いで3月例会卓話は、総務省統計局調査員の仕事を40年近くされている古庄敬子さんに、「統計からみる北九州の移り変わり」(仮題)を話していただくことに決まりました。意外な裏話が次々に登場しますので、ご期待ください。

当クラブは4月から例会会場が変更になります。新しい会場でのスタートとなる4月例会卓話は、楽しい企画にしようと衆議一決。目下、候補にあげた講師へ打診している段階です。今年も楽しく有意義で多彩な例会卓話を工夫して行きます。会員の皆さんの斬新なアイデアの提供をお願いします。(松本)

交流委員会

1月14日 6名出席

創立25周年も過ぎ今年もは新たな歩みの始まりです。初会合はいつもの湖月堂で17時30分からスタート、新年会に向けて細かな段取りを話し合いました。

会員の皆様に楽しんでもらいたいという思いで、全員張り切っています。また、今後の企画「春のお花見」についても、いろいろな意見を出し合いました。

今後、交流委員会は会員の皆さんと一緒に私たちの出来る事!!してみたい事!!行ってみたい所!!の声を集め、楽しく集えるプロバスクラブを目指し進んで行きたいと思っています。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(吉田秀・柴村)

広報委員会

1月6日 4名出席

初委員会をテトラホテル北九州で15時から開催。寒さ厳しい折2名が休み。先ず「つながり2月号」の編集会議で、新年会記事の執筆者や写真担当を決めました。委員会・同好会の活動状況をみると少し記事が足りません。トピックスや年中行事等も見つかず、久々の「暖気流」ということになりました。さてどんな記事が掲載されるかお楽しみに。続いて「つながり1月号」の校正を行い、喧々諤々。創立25周年記念誌 Link25 号の反省会もして会議は終了。最後はお節も入ったお膳を囲み、和やかな食事会で締めました。少数精鋭の当委員会は、今年も読みごたえのある面白い紙面作りを目指して、委員一同頑張ることを心に誓い散会しました。(内藤)

12月例会報告

真鍋会員が体調不良で欠席、今月もストレッチ体操は中止。内藤広報委員長がプロバスクラブの国際組織でも会報が発行されていることを報告、「日本語版もあるので一度読んでみてください」と実物をふれあい掲示板に展示した。会食の後の卓話は北九州市平和のまちミュージアム学芸員の小倉徳彦氏が「軍都・小倉の歩み」のテーマで、陸団が置かれた経路やその場所などを古い地図で紹介、原爆の投下目標になっていたことを説明した。年配者が多い組織だけに、卓話後、講師を囲んで思い出話をする会員の姿も見られた。

委員会報告では吉田秀子交流委員長が「1月の新年会ではバラエティーに富んだ企画を考えています、皆様の協力をよろしく」と呼びかけた。ショートスピーチは安河内さんがお気に入りの本を紹介した。(安高)

同好会活動報告

茶道クラブ「菜の花」

12月14日11時30分から茶道クラブ菜の花を開催。9名全員古賀会員宅に集合。弁当を食した後茶室の方に席を移動します。

11月は炉開きのため、立礼で炉のお点前が出来る様に古賀さんがいろんな工夫をして準備して下さいました。私も何年ぶりかでお薄の点前をしました。忘れていることが多く、色々指導を受けながら何とかお茶を立てることが出来ました。その間にお客の作法や掛け軸・道具のことについて教えてもらいます。皆おいしいお茶を頂いて、稽古が終わった後は後片付けを済ませリビングに移り、コーヒーを飲みながらいつもの楽しいおしゃべりで時間が過ぎてしまいました。(柴村)



ワインを楽しむ会

第144回を12月15日18時からブラスリー「リップ」で開催。参加者11名。ワインと料理をマッチングしたプロデュースを担当しています山下会員が、令和2年12月(128回)から新型コロナの流行等により出席が叶わず、FaceBookで登場する形式で開催していましたが、今回から復活されました。しかし、体調の不良からこの役は古賀会員が引き継ぐことになり、先輩からのご指導と本人の精一杯の努力で、今回からワインの解説を行うことになりました。今回はイタリアの白、カルフォルニアのカベルネ・ソーヴィニヨン、最後はクリスマスに相応しいハイクラスのフランス・ブルゴーニュの赤と、これに相応しいクリスマス料理を頂き、ちょっと早いクリスマスイブを最高の笑顔と会話で全員が楽しみました。(古賀)

歌をうたう会

12月27日15時から今年最後の会を開催。このひと月は三寒四温を繰り返し、寒の日で最高気温8度という寒い日でしたが、全員参加でした。滑舌訓練からはじまり、先月練習した「朧月夜」から始まり、「鯉のぼり」に。ところが主旋律を交代する箇所になりますと、先月のレッスンはどこかに消えて、初回の練習に戻る不始末です。年齢のせいばかりではないと大いに反省。次回はしっかり出来るようにと心に刻む次第でした。最後は「朧月夜」「鯉のぼり」「茶摘」を通して歌い、最後の練習を終了しました。(古賀)



歴史文学講座

12月24日10時から松本清張記念館開催。参加者はゲスト2名を含む9名で、史学博士廣崎篤夫先生の「黒田騒動と井上崩れ」のお話でした。

黒田52万石の二代目藩主細川忠之が、幕府の定めた「武家諸法度」に触れる諸行を繰り返し、お取り潰しの危機が迫っていた。これを栗山大膳が諫めたものの聞き入れられず、逆に藩主忠之に謀反の疑いがあると幕府に訴えた。幕府が黒田藩を取り潰すことができないことを見通しての大博打だったが、その作戦が図に当たり、黒田藩の所領は安泰となった。この「黒田騒動」の後に肅清の嵐に巻き込まれた黒崎城の井上一族が、筑前退去になるなどの「井上崩れ」の話もされました。

廣崎先生は今年も2月から、偶数月第4火曜日の10時から松本清張記念館で開催します。2月は「平家に尽くした誠忠の武将・山鹿兵藤秀遠と壇之浦合戦」です。(松本)



私、安河内は致知出版の年間契約で、毎月送られてくる雑誌を購読していましたが、読んでみたい本がたくさんあって読みこなせなくなり、購読をストップしました。人間学を追求することに特化した企画に魅力があり、諦めてしまったわけではありませんでしたので、総集編といえるような本が出た時には、買うようにしているのが、「人生百年時代の生き方の教科書」です。今日はこの本を紹介します。



安河内さん曰く、紹介した「人生百年時代の生き方の教科書」の「見出しを見るだけでも完結しそうな言葉が並んでいる」との話には、会員が待ちきれず、「どんなのがあるか 内容を紹介して」の願いがありました。その例に読み上げられた三浦雄一郎氏の「人間にはそれぞれのエベレストがある」には、私も「そうそう！」と相槌を打ち、“手元に置いておきたい講座級の 1 冊”と感じました。この頃充実した本屋がなくなったので帰ったら検索して見よう…と、アマゾンかな？(植田)



♡小倉都心部クリーンキャンペーンに参加♡

冬とはいえ穏やかな日差しが注ぐ 12 月 11 日午前 10 時から、恒例の駅前清掃に 3 名の会員が参加しました。若い世代の参加者が以外に多く頼もしく感じました。小倉北区町づくり協議会の肝付会長が挨拶、小倉北区長もエールを送り、全員で「エイエイオー」の気合を入れて開始です。ゴミ鋏、ゴミ袋、軍手を持ってさあ一街中へ。たばこの吸い殻と落葉が結構多く、鋏で上手くつかみながら次々とゴミ袋へ。いっぱいになった袋を集積場所でお茶とタオルに交換し、爽やかな気分で散会しました。(内藤)

春を呼ぶ音楽祭

1 月 12 日、冷たい風を頬に受けながらムーブへ。'24 小倉北区民音楽祭が 14 時 30 分から開演です。小倉北音楽協会会長を務める植田会員が、運営から影マイクまで八面六臂の活躍です。

音楽祭の始まりはピアノ独奏で、シューマンの交響的練習曲。豊かなピアノの音色がホールに響き渡りました。2 番目はベル・エキップ(良き仲間たち)という総勢 20 人の弦楽アンサンブルが登場。服部克久の作品等を軽やかに楽しく奏で、アザラシヴィリ作曲の「無言歌」はピアノも入って情緒溢れる演奏を披露しました。

2 部はソプラノ独唱でベッリーニの「三つのアリエッタ」とオペラ・アリアを声量豊かな美しい声で歌い会場を温かく包みました。トリを務めたのは 6 月のプロバス例会で素晴らしい演奏を聞かせてくれたオーボエトリオの【ノイ シアーモ】です。シュトラウスの「春の声」でスタートし、日本の歌メドレー、終わりはピアソラの「リベルタンゴ」で締め、拍手喝采を浴びました。外の寒さとは裏腹の春の予感を感じさせる音楽祭を堪能しました。(内藤)

ありがとう BOX メッセージ12月分 (入会順、敬称略)

★冬らしい季節になりました(遠藤) ★今日も皆さんのお世話になりました(神田) ★忘れっぽくなった。歳のせいにはしたくない(大川) ★今年も健康で過ごしたことに感謝です(古賀) ★ひさし振りに出席とても楽しいです(山下博) ★(松本) ★(植田) ★創立25周年記念誌が発行できました。感謝です(内藤) ★長い夏も過ぎ短い、秋も終わりもう正月です(吉田信雄) ★(安高) ★今日も感謝です(橋本) ★早いもので無事 1 年が過ぎました。感謝(柴村) ★来年もよい年になりますように！(藤原)

収支報告	令和 6 年11月末残高	29,773円
	令和6年12月分	7,500円
	令和6年12月末残高	37,273円